

# 磐城新聞

刊夕日八  
定価 毎月一元二角  
電話 二二五五  
社址 磐城新聞社

## 磐中富士登山記

(二日目続き)  
 彼の名な砂走を下り吾等々を起し来た。愈々歩  
 引率されたる小松先生に近づけるため眼をこすり  
 一番先に走る、見てゐるながら起して下車用意をな  
 も危げであつた。余等も亦三十日前三時五十分無  
 走り始めた一足延せば一週遅滞した。薄明る頃  
 以上も飛び行くのである。車場前廣場にて萬葉を三唱  
 冠の帽子の紐強く結べども、登山隊一行は開散した  
 吹飛ばされんとす。余間僅か半日間の急旅行  
 が空気を切り富士の砂走をであつたが精神のにも身  
 驅下る時ヒューヒュー音を的に可なりぬ獲りあつた  
 立て一日千里を驅くる駿馬のごとく信ず(藤井生  
 余等には及ばじと願ひ下  
 の取り方困難にて余等も一  
 二度尻餅を衝いた。登る  
 際には顔色を變へたる富士  
 山も下るとなれば實に早や  
 もの。十一時二十分には山  
 麓に到着した。



城主の昌康に向つて逆らうは命よりも大事である。殊  
 やうな者は用敷をせぬと云  
 つて何んぞ申しあげて下さ  
 るか承知しないのでござりま

## 至急御知せ

磐城 益踊唄 一枚  
 昨年が増した出来栄の  
 また、平町若連に依つて吹込れ  
 ました賣切にならぬ内是非  
 平町四丁目  
 會田時計店  
 電話三三六三

## 高久病院

平町田町  
 電話五三三番

## 岐阜提灯大賣出し

夏物棚サラヒ特價  
 陳野洋品店  
 平町二丁目

謝恩臨時大興行  
 ◎牛素の御愛顧に報ゆる爲御禮として例年に  
 慣い舊中元値下げ興行  
 プロケラム  
 問題の(瑠璃子)西條香代子 南部章三  
 女性(瑠璃子)西條香代子 小杉 勇  
 活劇 青年(忠) 夫島 耕三

怪奇探偵 死の寶庫 中篇上巻  
 連続活劇 秘宝の開かんとして活躍する忠夫  
 秘宝の塔の財寶を開かんとして活躍する忠夫  
 忠夫を助け、怪人の影の如く現れる大友  
 善か悪? 瑠璃子の正体果して?

大日活超特作努力篇  
 尾上多見太郎、谷崎十郎、酒井米子、主演  
 時代 鳴門秘帳 第一二二篇  
 探偵奇談 鳴門秘帳 同時上映  
 夜の辻斬り元兇格闘、据物斬り連入十  
 夜孫兵衛目秀廉、無情無義之れぞ無双流の劍  
 士法月登之丞に流れて旅人の金を現  
 ふ白浪が婀娜者の見返りお綱である、彼等三  
 人の善と悪との競争物語  
 當ル八月七日ヨリ四日間限り

平 館  
 中元値下げ料金 高級常設  
 一等 十銭  
 二等 二十銭  
 三等 三十銭  
 電話四六六

柳 御一人前  
 始川 四拾銭 速迅前出  
 本年も相變らさず  
 御最負の程願ひます  
 牛肉 御料理 石川亭  
 平町田町(電話四三三番)

扇風機月賦販賣  
 三月拂十二回(一回目十二圓)  
 灼熱の眞夏が  
 近付きました  
 事務所のテーブルの上には  
 商家の店頭には  
 可愛た子さんの爲にも  
 各御家庭に一臺は是非お備へ下さい  
 モーター扇風機の  
 修繕も致します  
 平町白銀町九番地  
 電機機械 日東商會  
 電話 平六五〇

内科 平町舊城跡(城山)  
 小兒科 青沼醫院  
 皮膚科 醫學士 青沼淡夫  
 花柳科 電話四〇三番

平町間乗合自動車開通  
 八月七日ヨリ定期運轉可致候  
 平始發 午前六時  
 江名終發 午後六時  
 平自働車商會  
 發着所 南町民政俱樂部脇  
 電話六五九番  
 發着所 四丁目和泉屋前  
 電話一四二番

鐵筋コンクリート  
 鐵骨組立 土木、建築、請負業  
 和洋建築 合資會社  
 文化式建築 丸三森川組  
 設計監督 社長 大森鎮平  
 東京日本橋南町二丁目  
 電話茅場町66四五二番

鐵骨組立 土木、建築、請負業  
 和洋建築 合資會社  
 文化式建築 丸三森川組  
 設計監督 社長 大森鎮平  
 東京日本橋南町二丁目  
 電話茅場町66四五二番

ハチ シュ

# 蜂ブドウ酒

ハチ シュ

酔で やかに やかな

肉體美こそ特に御婦人方の生命とする  
 ところのものであります。ハチ切相な醗  
 成肉體、薄紅を刷いた如な皮の輝き、その  
 所有をたらしむべく醸られた蜂ブドウ酒は  
 精神増進のため、人體に無くてならぬ養料素  
 のすべてを兼ねたものであります

店商衛兵傳谷神 店商衛兵利藤近

